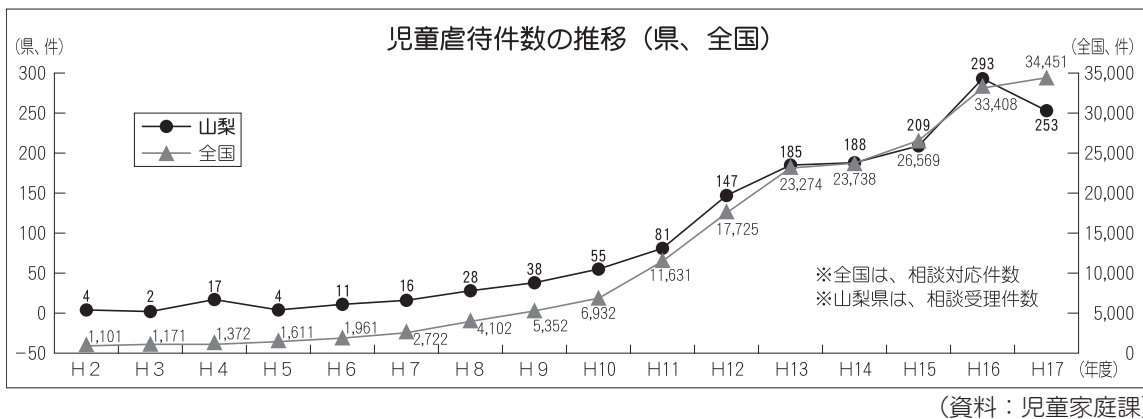


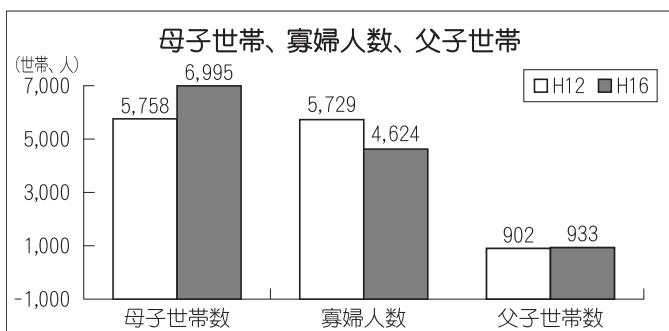
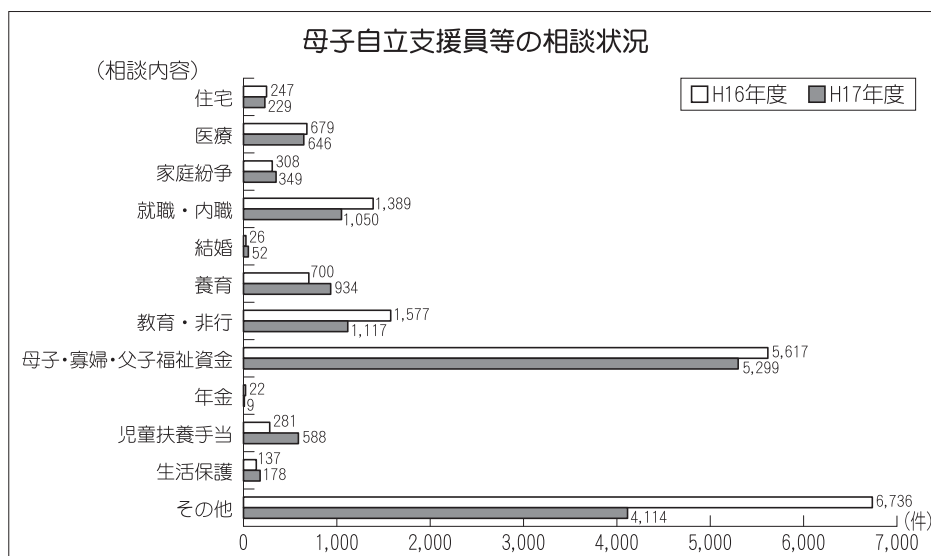
県は、H16年度まで増加傾向にありましたが、H17年度は減少しました。一方、国は増加を続けています。



(3) ひとり親家庭等への支援

県保健福祉事務所の母子自立支援員9名、地域においては、市母子自立支援員・市町村母子相談員が、相談に応じ、自立に必要な情報提供、指導等を行っています。

※母子自立支援員及び市町村母子相談員の合計相談件数

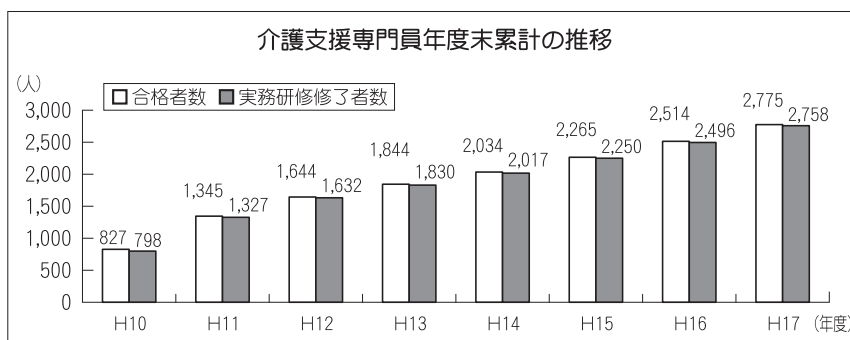


(資料：福祉保健部「厚生行政ダイジェスト」、児童家庭課「山梨県母子世帯等実態調査」)

重点目標2 高齢者、障害者が安心して暮らせる環境の整備

(1) 介護体制の構築

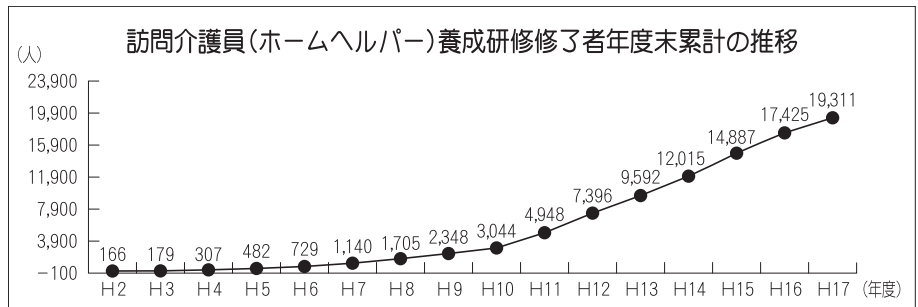
介護支援専門員は、介護保険法で定める者で、介護・支援を必要とする者からの相談を受け、その心身の状況等に応じた適切な介護サービスが利用できるよう連絡調整や介護サービス計画を作成し、日常生活を営むために必要な援助を行っています。



(資料：長寿社会課)

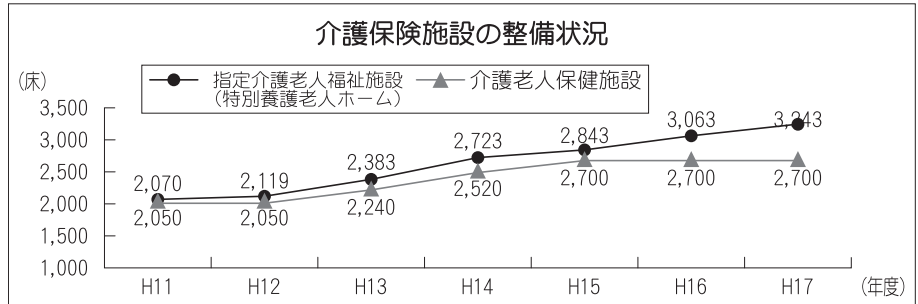
修了者数は、近年、大幅に増加しています。

訪問介護員（ホームヘルパー）は、心身に障害のある方や高齢者などの家庭を訪問して、家事援助や介護を行っています。



(資料：長寿社会課)

「健康長寿やまなしプラン」によるH20年度目標床数は、指定介護老人福祉施設3,543床、介護老人保健施設2,790床としています。

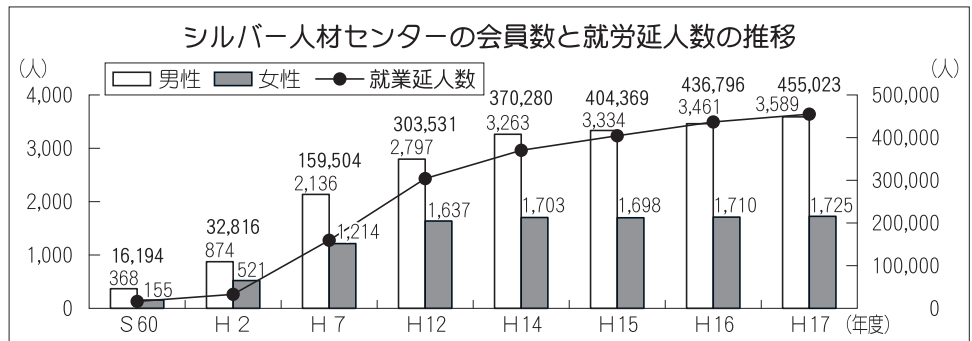


(資料：長寿社会課)

(2) 経済的な安定の確保

会員数、就労延人数ともに増えています。

シルバー人材センターでは、高齢者に相応しい仕事を家庭、企業、公共団体などから引き受け、会員に提供しています。



(資料：労政雇用課)

(3) 高齢者、障害者の自立を容易にする社会基盤の整備

新たなやまなし障害者プラン

＜基本理念＞ 県民だれもが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現

＜基本方針＞

- 1 障害をもつ人の権利の保障
- 2 個性ある自立生活の支援
- 3 ユニバーサルデザインによる生活環境の充実

平成16年3月策定(平成25年度目標年度、20年度に見直し)

- ◆だれもが暮らしやすいまちをつくるために
 - 相互理解の促進
 - 協働体制の整備
 - やさしいまちづくりの推進
 - 安全・安心の確保
- ◆生まれ育ち住み慣れたまちで暮らすために
 - 自己選択・自己決定の支援
 - 福祉サービスの充実
- ◆自らの力を高め地域でいきいきと活動するために
 - 保健・医療の充実
 - 教育の充実
 - 雇用・就労の支援
 - 社会参加への支援
- ◆精神に障害をもつ人の暮らしを充実するために
 - 精神障害者施策の充実

(資料：障害福祉課)

健康長寿やまなしプラン

平成18年3月策定(計画期間 平成18年度～20年度)

(資料：長寿社会課)

＜基本理念＞

この計画は、「ともに生き、ともに支える」という長寿やまなし県民憲章の趣旨を踏まえ、高齢者が自立して健康に暮らし、生きがいや尊厳をもちながら生涯を送ることができるよう、地域住民がともに支え合い、明るく活力ある健康長寿やまなしを構築していくことを目指します。

＜基本目標＞

＜施策の方向＞

自立して健やかに生きる社会づくり→健康づくりの推進、総合的な介護予防・地域リハビリテーションの推進
 地域のみんが支え合う社会づくり→良質で多様な介護保険サービスの提供、安心して暮らすことのできる環境づくり
 認知症高齢者対策の推進、地域包括ケアのシステムづくり
 元気に生きがいをもって参加できる社会づくり→高齢者の生きがいづくりや社会参加の推進、高齢者の尊厳を支える社会づくり

重点目標3 生涯を通じた女性の健康支援

(1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する啓発と支援

健やか山梨21 生き生きと健やかに暮らせる社会の実現のために

平成13年3月策定、平成18年3月改訂（平成22年度目標年度）

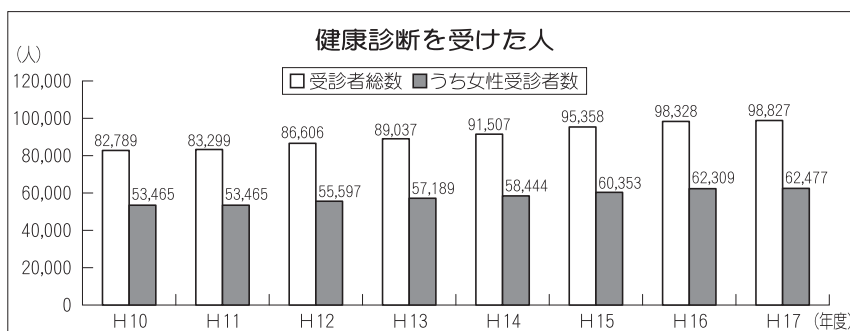
（資料：健康増進課）

- ＜健康課題＞
- 1 総合課題・・・計画の浸透及び健康増進のために必要な考え方の普及
 - 2 栄養・食生活・・・豊かで健康的な食生活の実現
 - 3 身体活動・運動・・・日常生活の中で体を気軽に動かす環境づくりと運動週間の徹底
 - 4 休養・こころの健康・・・十分な休養とストレスの解消
 - 5 たばこ・・・防煙、分煙、禁煙対策の推進
 - 6 アルコール・・・適正飲酒の定着
 - 7 歯の健康・・・8020（ハマルイマル）運動の積極的な推進
 - 8 糖尿病・・・糖尿病及び糖尿病合併症の発症予防
 - 9 循環器病・・・循環器病及び循環器病後遺症の減少
 - 10 がん・・・がんの発症予防と早期発見

数値目標
健康診断を受ける人
H22年度末 124000人以上
(H10年度82789人)

数値目標
意識的に運動を心がけている人(女性%)
H22年度 75%以上
(H11年度65.4%)

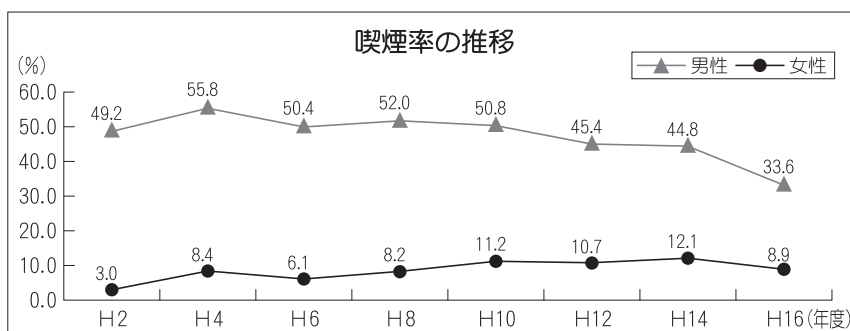
健康志向から、年々受診者数が増え、女性の受診者の割合も増えていきます。



（資料：健康増進課）

男性の喫煙率は、減少傾向にあります。

女性の喫煙率は、H10年度からH14年度まで10%を超えていましたが、H16年度は下回りました。

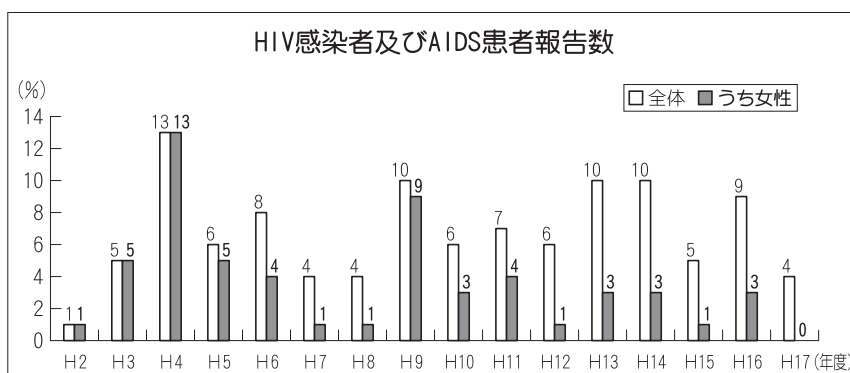


（資料：健康増進課）

県内のHIV感染者及びAIDS患者の報告数は、H11年までは女性が多くなっていましたが、H12年以降は男性の報告数が多くなっています。

全国的には、H8年以降増加が続きH17年は過去最高の報告数となっています。特に男性の増加が顕著になっています。

更にHIV/エイズへの理解を深めることが必要となっています。



（資料：健康増進課）

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは

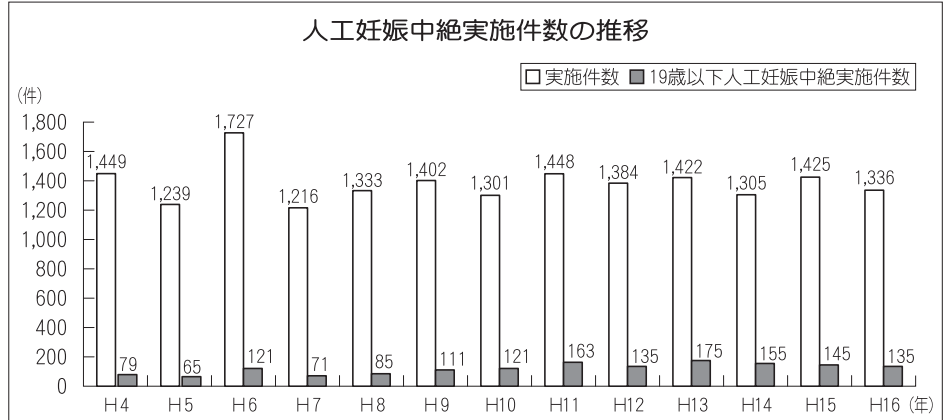
1994年にカイロで開催された国際人口・開発会議において提唱された概念です。

いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれています。

思春期や更年期における健康上の問題等生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されています。

(資料：内閣府男女共同参画局)

H9年以降、19歳以下の人工妊娠中絶の実施件数が、100件を超えています。

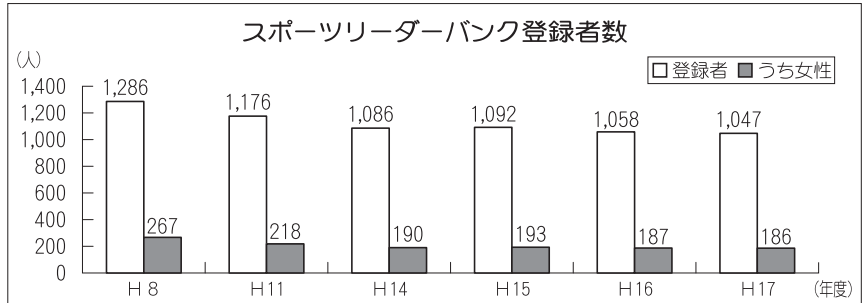


(資料：健康増進課)

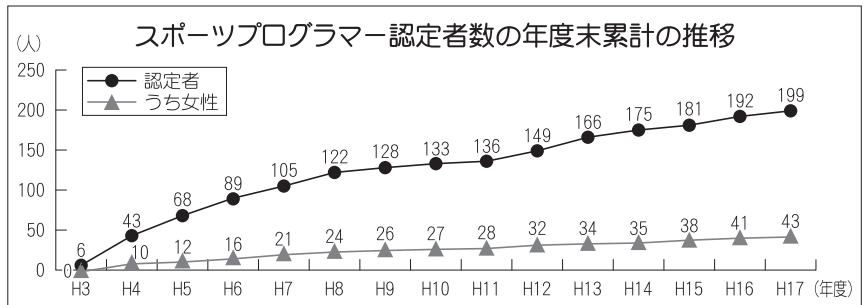
数値目標
スポーツリーダー登録者数
 H17年度 1200人
 (H13年度1178人)

スポーツリーダーバンクは、県民のスポーツ・レクリエーション活動の普及、発展を図るため、スポーツ活動指導者の登録を行い、「地域や職場のスポーツ団体、学校」等の要請に応じて指導者を紹介しています。

スポーツプログラマーは、地域の公共スポーツ施設や各種教室等において、各年齢層に対して適切なスポーツ活動が出来るよう、相談及び指導助言を行う指導者です。



(資料：スポーツ健康課)



(資料：スポーツ健康課)

(資料：医務課)

(2) 母と子の健康の確保

やまなし医療ネット

平成16年12月1日以降、やまなし医療ネット（山梨県広域災害・救急医療情報システム）により、「今、診てもらえる医療機関をさがす時」、「休日夜間の当番医をさがす時」、または「女性医師がいる、医療機関や専門的な外来を実施している医療機関をさがす時」などに役立つ情報が掲載されています。

総合周産期母子医療センター

山梨県立中央病院に併設し、お母さんと赤ちゃんの命を守るためにあらゆる妊娠・分娩の異常に対応できるよう、24時間体制で患者さんの受け入れ準備を整えています。

女性専門外来

山梨県立中央病院に開設、10代から80代まで幅広い年代の方が受診しています。症状としては、月経に関すること、更年期障害などの婦人科疾患や気分が落ち込むなどの精神的な悩み、内科的疾患、泌尿器科疾患など様々です。また、女性が生涯に渡って生き生きと生活できるよう予防医学にも力をいれています。

小児救急医療体制

医療関係者などの協力のもと、県と市町村が共同してつくる全県的な「小児救急医療体制」として、通常の診療時間外に、誰もが小児科医による小児科医による診療が受けられる「小児初期救急医療センター」をH17年3月開設しました。

※甲府市医療福祉会館（甲府市医師会救急医療センター内）